

株式会社サンシン（新潟県長岡市）

～精密加工技術・精密面加工機のリーディングカンパニー～

1. 専用機製作からオリジナル製品製作へ転換

株式会社サンシンは、昭和30年に設立され、装置・機械づくりが盛んであった新潟県長岡地域において、テープ研磨装置の製造・販売を中心とした事業を展開している企業である。設立当初は、注文を受けた専用機の設計・製造を専門に行っていたが、専用機のみでの経営は難しいと判断し、多様化・高度化するニーズに対応したオリジナリティのある製品づくりを目指して自社技術の開発に取り組んでいる。

同社は、知的財産権に対する関心も高く、創業当初から「何か開発をしたら、必ず権利化をしよう。権利として守っていこう。」との考えのもと、知的財産権に関する取り組みを行っている。

2. テープ研磨技術

同社は、昭和50年後半、電子産業界で磁気ヘッドの需要が増加してきたアナログ全盛の頃、その磁気ヘッドをファイナル研磨する研磨テープ製品といえば大手米国企業の製品しかなく“このような研磨テープを日本でも作れないだろうか”との思いがあった。

ある日、新聞広告に某国内メーカーで“日本初の研磨テープ開発・販売”との記事が目に入り飛び込み、即、その某メーカーと交渉し、研磨装置は同社で、販売は某大手商社が担当、との三人四脚で販路開拓・販売がスタートした。爆発的に装置・研磨テープとも大幅に伸び、研磨テープ装置メーカーとして同社の礎を造ることができ、勿論同社に於ける知財第1号として特許出願し認可された。

テープ研磨加工は、被研磨物に対し、厚さ3～100 μ mのポリエステルフィルム上に粒径0.1～60 μ mの砥粒をコートした研磨テープ（ラッピングフィルム）を一定圧力で押し当てた状態でテープを送って研磨する加工法である。0.01 μ mまでの超精密仕上げや均一な仕上げができ、テープの種類によって粗さの管理や用途に応じた仕上げも可能であることから、精密機械部品、電子・電気製品部品、各種ディスク、自動車部品の製造には欠かせない加工法となっている。また、小型平面研磨装置やインライン平面研磨装置といった同社の超平坦化研磨装置は、プリント基板の薄膜・厚膜を研磨テープにて常に同条件で平坦化研磨を行うことを特徴としている。

同社は、長年、電子産業に特化した装置作りを行ってきたが、大きいものから小さいものまであらゆる形の製品に対応した研磨装置を作れる強みを活かして、数年前から自動車関連の研磨装置の開発・販売も開始した。当時は、燃費向上やCO₂削減を命題にしていた自動車産業に事業を広げる恰好の時期であり、電子産業分野で培った研磨技術を応用してシャフト系やスプール部品の表面を滑らかに仕上げることで燃費向上やCO₂削減を達成した。また、部品の表面のみならず、内径部分のテープ研磨を可能にする技術の開発にも成功し、ベアリングメーカー等へも納入している。

3. 製品開発から知的財産への取り組み等

同社は、シーズとニーズが合わなければ、どんなにいい技術を開発しても、活かされないと考え、様々な業界ニーズの収集・把握を人任せにすることなく必ず自ら行っており、こうした惜しみない努力が次なる製品開発に活かされている。

一方、知財管理に関しては、模倣品対策として装置そのものを出願するのではなく、ユニットとして出願している。また、同社製品は基本的に工場内で使用されるものが多く、権利侵害の立証が困難なため、適切な管理方法を選択するとともに、会社間で厳密な秘密保持契約を結ぶよう配慮している。

4. その他、今後の取り組み等について

同社では、創業当初は電子産業分野の売上げが100%を占めていたが、現在では自動車産業が70%を占めるまでになっている。今後の経営戦略としては、各々50%でバランスさせる方針である。

知財経営面においても、これまで特許の取得は防衛目的のみであったが、今後は社長自らが「2008年は特許攻撃元年！」という強い信念のもと、「特許ビジネス市」への参加やイベントへの出展など、ライセンス契約に向けた新たな取り組みを通じて、同社の技術力をPRしていく方針である。

●保有権利に基づく製品例



カラーフィルター全面研磨装置



シャフトジャーナル研磨装置



スタンパー裏面研磨装置

●会社概要

名称及び代表者名	株式会社サンシン 代表取締役 細貝 信和
本社所在地	新潟県長岡市平島1-11
創業	1987（昭和62）年
資本金	7,530万円
従業員数	20名
主要製品	テープ研磨装置の製造・販売、フィルム／テープの販売
電話	0258-22-1529
URL	http://www.kksanshin.co.jp